

WEEKLY SIGNAL

平成27年5月15日(金) 1274号

上田 八木 短 資 株 式 会 社

来週の市場とレート予想					
	5/18 (月)	5/19 (火)	5/20 (水)	5/21 (木)	5/22 (金)
無担保O/N	0 . 0 3 0 % ~ 0 . 1 2 5 %				
銀行券	+ 1,800	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 16,000	△ 3,000	△ 11,000	△ 28,000	+ 1,000
資金需給	不 14,200	不 2,000	不 11,000	不 29,000	ト ン
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 交付税特会借入・償還		国庫短期証券発行・償還(1Y)	国債発行(5年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,800 CP等買入 △ 300	共通担保(全店) △ 13,600			共通担保(全店) △ 3,600 被災地支援 △ 7
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 ETF買入 + 400	共通担保(全店) + 11,300 国債買入 + 11,300 短国買入 + 20,000 社債買入 + 1,300			
(日本)	機械受注(3月) マネターサーベイ(3月) 第3次産業活動指数(3月) 業態別の日銀当座預金残高(4月)		GDP(1-3月期速報)	金融政策決定会合(22日まで) 対外対内証券売買(前週分) 貸出先別貸出金(3月) 全産業活動指数(3月)	金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁の記者会見 日銀営業毎旬報告 (5月20日現在) 日本銀行が保有する 国債の銘柄別残高 日本銀行によるTDB の銘柄別買入額
(海外)	米 NAHB住宅市場指数(5月) 欧 EU外相理事会(ブリュッセル) 米 シカゴ連銀総裁講演 (ストックホルム)	米 住宅着工件数(4月) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (4月、改定値)	米 FOMC議事録(4/28-29分) 米 MBA住宅ローン申請指数 (15日終了週) 米 シカゴ連銀総裁講演 (ミュンヘン)	世界経済フォーラム 中東・北アフリカ会議 (ヨルダン、23日まで) 米 新規失業保険申請件数 (16日終了週) 米 中古住宅販売件数(4月)	米 消費者物価指数(4月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.070 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

当座預金残高は週初209兆300億円であった。週央には、国債の償還や源泉税揚げがあったものの、13日の短国・国債買入や、15日の社会保障給付金などの増加要因もあり、週末は209兆8200億円で越週した。無担保コールON物は14日まで0.067～0.068%レンジで底堅く推移した。積み最終日かつ週末となる15日はやや強含み、朝方から0.068～0.07%台で取引される堅調な地合いとなり、加重平均金利は0.070%(速報)となった。またTNでは週を通して0.07%前後でまとまった出合も散見された。ターム物は、1～2W物で0.11%台後半の出合いが中心であった。

15日、黒田日銀総裁は都内で講演し、当面の金融政策運営について「物価の基調が変化し、2%の実現のために必要となれば、躊躇なく調整を行う」と語り、従来通りの方針を示した。来週の材料は、1-3月期GDP速報値(20日)金融政策決定会合(21、22日)、海外ではFOMC議事録(20日)などが挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.075 ~ 0.085
TDB 3M	△0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約6900億円で、期落ち額約8500億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.070%台半ば～0.110%近辺と小幅低下した。現先レートの中心は、0.060%～0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約5000億円となっている。

<TDB>

14日に国庫短期証券3M第532回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0000%(前回債△0.0020%)、平均落札レートは△0.0024%(前回債△0.0036%)と前回債から利回りはやや上昇した。セカンダリーは3Mで0.002%近辺の出合い。6Mは△0.015%近辺の地合い、1Yは目立った出合いが見られなかった。来週18日に1Y、21日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初短国買入・国債買入オペが合計3兆1300億円オファーされたこともあり、0.02%近辺の出合から始まった。週央までは0.03～0.035%のレンジで推移し、TDB3Mの入札が行われた14日には0.06%近辺までレートが上昇。週末には今週2度目となる短国買入オペが2兆円オファーされ0.04%程度の出合から始まったものの、最終的には0.06%近辺での出合までレートが上昇し越週した。SCは10年337回債がO/N物・ターム物ともに週を通して深いネガティブレートで推移した。20年152回債は来週の発行日エンドのターム物で△0.03%での出合が見られた。2年債は350・351回債、5年債は123回債、10年債は323・325・337・338回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。